

児童朝会 講話 ■令和3年8月30日

No11 「パラリンピック」

おはようございます。

校長先生の声届いていますか？

今から16年前、2005年にJRの福知山線で大きな事故があり、100名以上の方がお亡くなりになりました。運転手さんが、列車の遅れを取り戻そうとして、制限速度を超えてカーブに突っ込んでしまい、カーブを曲がり切れなかった列車は脱線し、マンションにぶつかり、1両目から3両目まではマンションの1階にめりこみ、ぺちゃんこにつぶれてしまいました。特に先頭の1両目は大きく壊れてあとかたもなくなっていたといわれるほどの大きな事故でした。



その1両目に乗っていて、奇跡的に助かった人の1人に岡崎愛子さんという方がおられます。

岡崎さんは、幼少期より大変活発な女の子で、高校時代にはフリスビードッグで全国大会に出場するなどスポーツで活躍されていました。

そんな彼女の生活が一変したのが、この福知山線の脱線事故です。大学に通うために、いつもどおり電車に乗っていて事故に巻き込まれました。

一命は取り留めたものの、けい椎を骨折する重傷を負い、首から下は全く動かなくなりました。



体が思うように動かずふさぎ込む毎日…「これからはどうなるんやろう。」など不安は大きかったそうです。

そんな気持ちを前向きに変えてくれたのは愛犬のダイナでした。入院中、フリスビーを投げようとしたのですが手の力が衰え足元に落下。それでも喜んで取ろうとするダイナの姿を見て「障害があってもダイナの遊び相手になれる。」とダイナから前向きに生きる勇気をもらったそうです。

そして、岡崎選手は「できなようなことでも、どうやったらできるだろうと考えながらやると意外にできる。**限界を自分で決めるのではなく、とりあえずやってみることが大事なんだ。**」とダイナと遊びながら学んだことと、話してくれました。

入院生活は1年以上にもおよび、事故の負傷者として最後に退院。その後も懸命にリハビリに励み事故から8年後、経験者だった母親の勧めもありパラアーチェリーを始めました。



はじめは、自分で腕を動かすこともできなかったそうですが、毎日リハビリ、筋力トレーニングに励み、今ではパラリンピックに出られるほ

どにまで回復しました。とはいっても、まだ首から下にマヒがあり、指や体幹の筋力は、ほとんどありません。

昨年、東京パラリンピックに向け、岡崎選手はこう決意を語っています。

「アーチェリーを見て面白いと思えるような試合がしたいのと、これまで支えてくれた人たちに感謝を伝えたいです。」

そして「事故にあってよかったとは言わないですけど、でもこれまでの15年、積み重ねてきたものがあって人との出会いであったり、全て自分の糧になっているので、自分にできることをしっかりやって、来年の東京パラでは見に来てよかったと思ってもらえるようなおもしろい試合がしたいです」。と語ってくれました。

岡崎選手は、事故の後遺症で汗をほとんどかけないので、熱中症も心配です。8月31日火曜日に岡崎選手が出ますので、暑さにまけずがんばってほしいと思います。

そして、みなさんも、自分で限界を決めるのではなく、とりあえずやってみることを大事に、毎日の勉強やスポーツに頑張ってみてください。

これで、校長先生のお話を終わります。さいごまで、静かに聞いていただきありがとうございます。ありがとうございました。

また、よかったら校長室の前のボードに、今日のお話の感想をつぶやいてみてください。